

人生100年時代における図書館サービスの在り方

呑海沙織（筑波大学 図書館情報メディア系）

1. はじめに

2. 人生100年時代（LIFE SHIFT）

「2007年に日本で生まれた子どもの半分は、107年以上生きることが予想される。いまこの文章を読んでいる50歳未満の日本人は、100年以上生きる時代、すなわち100年ライフを過ごすつもりでいたほうがいい。」

- ・ リンダ・グラットン, アンドリュー・スコット著；池村千秋訳『Life shift (ライフシフト)：100年時代の人生戦略』東京：東洋経済新報社, 2016.11
- ・ 2017年9月「人生100年時代構想会議」発足：教育の負担軽減・無償化, リカレント教育, 人事採用の多元化など
- ・ 人生のステージモデルの変質
 - 従来モデル：教育→仕事→引退
 - 人生100年時代モデル：
Explorer（探検者）→Independent Producer（独立生産者）→Portfolio Worker
- ・ 人生100年時代において必要性が増すもの：教育, 多様な働き方, 無形資産

3. 超高齢社会とは

3.1 日本における高齢化の現状

- ・ 高齢化率（全国）は, [] %
 - ・ 65歳以上の高齢者人口は3,459万人。男性：1,500万人, 女性：1,959万人
 - ❖ 「65～74歳人口」（前期高齢者）は1,768万人, 13.9%
 - ❖ 「75歳以上人口」（後期高齢者）は1,691万人, 13.3%
- * 『平成29（2017）年版 高齢社会白書』

3.2 世界における高齢化

- ・ 高齢化のスピード
- ・ 地球規模で進む高齢化

3.3 将来推計人口でみる50年後の日本

- (1) 総人口は, 8,808万人
- (2) 約2.6人に1人が65歳以上, 約4人に1人が75歳以上
- (3) 年少人口, 出生数とも現在の半分程度に, 生産年齢人口は4,529万人に
- (4) 現役世代1.3人で1人の高齢者を支える社会の到来
- (5) 将来の平均寿命は男性84.95年, 女性91.35年

4. 高齢者と図書館

4.1 高齢者になったときに利用したい施設等

高齢者になったときに利用したい（65歳以上には、引き続き/新たに利用したい）施設等

「銀行」（84%）／「公共交通」（82%）／「図書館」（75%）

「郵便局」（72%）／「温泉・入浴施設」（69%）

* 「高齢社会のあるべき姿に関する意識調査報告書」（経済広報センター, 2012）

4.2 高齢者になった時に自宅の近くにあった方がよい施設等

高齢者になったときに（65歳以上は現在）、自宅の近くにあった方がよい施設等

「病院などの医療機関」（86%）／「公共交通」（81%）／「郵便局」（66%）

「銀行」（65%）／「図書館」（64%）

* 「高齢社会のあるべき姿に関する意識調査報告書」（経済広報センター, 2012）

4.3 高齢社会における生涯学習と公共図書館

・ 「支えられる」高齢者 → + 「支える」高齢者

・ 公共図書館の役割

- 高齢者の学習拠点

- 高齢者の生きがい創出の場

* 「長寿社会における生涯学習の在り方について～人生100年いくつになっても学ぶ幸せ 「幸齢社会」～」（超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会, 2012）

4.4 高齢者の図書館ニーズ

(1) 多様な高齢者

(2) 図書館への物理的アクセス

(3) 図書館資料・情報へのアクセス

(4) 場としての図書館に対するニーズ

(5) 認知症への高い関心

(6) 主体的な社会参加への意欲

* 国立国会図書館編「超高齢社会と図書館：生きがいづくりから認知症支援まで」図書館調査レポート, 2017.3

5. 認知症と図書館

5.1 日本の認知症施策

(1) 認知症高齢者の割合

- ・ 2012年現在, 65歳以上の約7人に1人(約462万人), 2025年には約5人に1人
- ・ 認知症高齢者またはその予備群は, 約4人に1人〔2012年現在〕

(2) 認知症の社会的費用

年間14.5兆円(2014年推計)

* 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室の佐渡充洋助教と厚生労働科学研究の共同研究グループ(2015年5月)

(3) 新オレンジプラン

- 2015年1月、厚生労働省、内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）：認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて」
- 「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。」

(4) 地域包括ケアシステム

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービスを提供する体制

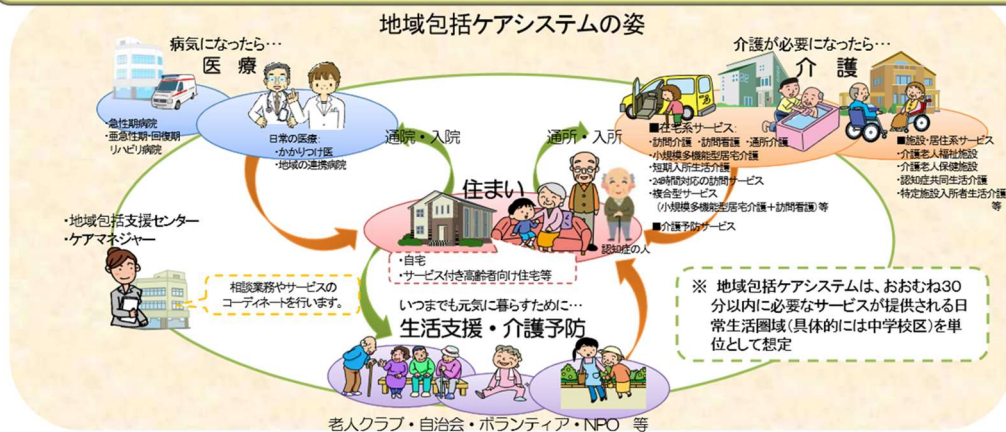
地域包括ケアシステム

○ 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。

○ 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。

○ 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。

地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。



5.2 認知症にやさしい (Dementia Friendly) とは

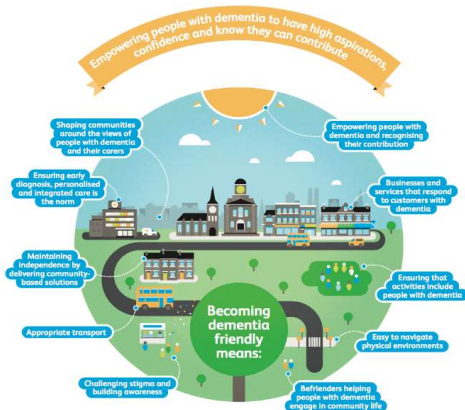
・あらゆる人が認知症について知り、理解することで、認知症の人が「理解されている」「存在価値がある」「地域に貢献することができる」と感じることができる状態

* 超高齢社会と図書館研究会『認知症にやさしい図書館ガイドライン』2017.10

・「認知症に伴う課題を『疾患』にのみ帰結させて医療や介護のみの文脈でとらえるのではなく、認知症の人とその周囲の人、あるいは環境との相互作用により顕在化する社会的な課題として」のとらえ直し

・ 医療モデル→生物・心理・社会モデル

* 河野禎之「社会課題としての認知症：認知症にやさしいまちづくり」作業療法ジャーナル、52(1)、2018.1、p62-66



認知症にやさしいコミュニティのイメージ図
(英国アルツハイマー協会)

5.3 『認知症にやさしい図書館ガイドライン』

- ・ 認知症にやさしい図書館は,
 - ① 地域包括ケアシステムに主体的に関わり、認知症にやさしい地域を支える一員
 - ② 認知症の人や家族等に、資料や情報、サービス、空間を提供
 - ③ 認知症の人の社会参加や生きがい創出の手助けを
- ・ 認知症にやさしい図書館は、認知症に特化したものではなく、結果的にすべての人にやさしい図書館 (1.4)
- ・ 図書館は、地域包括ケアシステムに主体的に関わり、図書館の特質を生かしたサービスを提供 (3.4)
- ・ 認知症の人が安心して図書館を利用するには、図書館にいるあらゆる人々が認知症の特徴を理解し、接することが必要 (5.2)
- ・ 地域包括ケアシステムのあらゆる主体と連携・協力 (7.1)
- ・ 図書館は、認知症の人や家族とともに図書館プログラムを考え、実施 (7.5)
- ・ 介護予防を視野にいれ、サービスを利用しながら地域とのつながりを維持できるような仕組みを提供 (7.5)

6. 超高齢社会における図書館の役割

◆関連領域の主要な成果物

- (1) 溝上智恵子・呑海沙織・綿抜豊昭編著. 高齢社会につなぐ図書館の役割：高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み, 学文社, 168p., 2012.9
- (2) 呑海沙織・溝上智恵子. カナダの公共図書館におけるコミュニティ主導型の高齢者サービス. 日本図書館情報学会研究大会発表論文集 62, 97-100, 2014
- (3) 呑海沙織, 志賀渉, 溝上智恵子. 公共図書館における高齢者サービスの現状. 日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集, 45-48, 2014
- (4) Saori Donkai, Chieko Mizoue. The Public Library in an Aging Society: Developing Active Library Participation in Japan. Library and Information Science Research in Asia-Oceania: Theory and Practice, IGI Global, 266-283, 2014.2
- (5) 呑海沙織. 高齢社会における図書館サービス：サード・エイジと図書館. 図書館雑誌, 108(5), 313-315, 2014.5
- (6) 呑海沙織, 溝上智恵子. イギリスの公共図書館における認知症支援サービス. 日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集, 8-11, 2015
- (7) Saori Donkai, Chieko Mizoue, Norihiko Uda, Hiroki Yamazaki and Ryoko Narita. Visualizing information seeking behaviors of older adults at public libraries: Reflective learning and information literacy. Proceedings of the 6th International Conference on Asia-Pacific Library and Information Education and Practice, 342~350, 2015.10
- (8) Saori Donkai, Chieko Mizoue and Hitomi Nakamura. Humanoid robots and the new library services: Investigation of age differences on affinity toward humanoid robots. Proceedings of the 7th International Conference on Asia-Pacific Library and Information Education and Practice, 2016.11
- (9) 国立国会図書館編『超高齢社会と図書館：生きがいづくりから認知症支援まで』図書館調査レポート；16, 2017.3 (研究主幹)
- (10) 小川敬之, 呑海沙織, 成合進也. Dementia Friendly Social-Resources の創生. 老年精神医学雑誌, 28(5), 477-484, 2017.5